

7月の安全運転ごよみ

- 1日(水)～7日(火)...全国安全週間
- ～9月30日(水)...STOP!熱中症クールワークキャンペーン
- 1日(水)...国民安全の日
- 20日(月)...海の日
- 23日(木)...大暑

7月の安全運転目標

高速道路を安全に走行するために

夏本番を迎え、レジャーなどで高速道路を利用する機会が一段と増える時期となりました。

高速道路は便利な一方、わずかな油断や車両の不備が大きな事故につながるおそれがあることを再認識して、安全運転に取り組みましょう。



後部座席のシートベルト非着用、致死率は約14倍

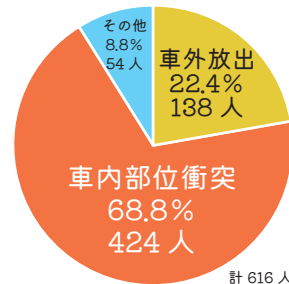
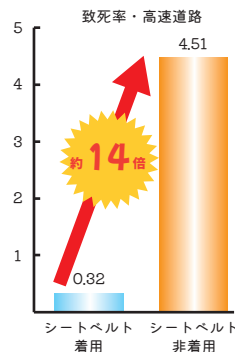
警察庁のデータによると、高速道路での後部座席ベルト非着用は、着用時に比べ致死率が約14倍と大幅に増加します。

後部座席でシートベルトを着用していなかった場合、

- ・車内で全身を強打する
- ・車外に放り出される
- ・前席の人に危害を加える

といった危険性があります。

出発前に運転者が全席の着用を必ず目視で確認することで、シートベルトの非着用を防止しましょう。



警察庁「高速道路・シートベルト着用有無別致死率/後部座席シートベルト非着用死者の人身加害部位別構成率」

裁判事例 シートベルト非着用の被害者に10%の過失相殺

2013年 7月22日午後9時50分ごろ、神奈川県横浜市内の高速道路上で、乗用車に大型トラックが追突し、乗用車の後部座席同乗者が車外に投げ出される事故が発生しました。裁判所は、後部座席同乗者のシートベルト不着用が損害の拡大に寄与したことは明白であるとして、同乗者の損害につき10%の過失相殺を認めました。

シートベルトをしていなかったことが過失とされることも念頭に置いておき、シートベルトの着用を徹底しましょう。



(横浜地裁2017年 5月18日判決)

高速道路のリスクを理解する

RMS ニュース

2026年7月号

タイヤトラブルを防止する

7月の高速道路は路面温度が60℃を超える過酷な環境であり、車両のトラブルが即座に大事故に直結します。夏場に最も多いトラブルがタイヤのパンク・バーストです。特に空気圧が低い状態で高速走行を続けると、タイヤが波打ちながら熱を帯びる「スタンディングウェーブ現象」が発生し、破裂してしまうおそれがあります。

走行前には必ず空気圧を点検し、溝の亀裂も確認してください。

また、万が一のトラブルに備えて、停止表示器材（三角表示板等）・発炎筒は必ず積載しておきましょう。



走行前に空気圧を点検しよう

ACC（アダプティブクルーズコントロール）を過信しない

近年、アクセル操作とブレーキ操作の両方を自動的に行なう安全運転支援機能の普及が進んでいます。追突の抑止や運転者の疲労軽減といったメリットがある一方で、緊張感の薄れによる「居眠り」や「わき見」を誘発する一因となっているおそれがあり、システムが対応できない工事区間の規制帯などへの衝突事故も頻発しています。

システムが自動的に行なうアクセル操作やブレーキ操作には制限があるため、ACCはあくまで運転者を支援する機能であることを理解してください。システム任せにはせず、いつでもアクセルやブレーキ操作ができるよう準備しておくことが重要です。



走行中に装置が使えなくなる事態も頭に入れておこう

運転者として知っておきたい知識

高速道路上で人がはねられる事故が多発

高速道路上で事故やトラブル等により停止した際には、路上を歩き回らず、通行車両に注意して、自車よりも後方のガードレールの外側など、安全な場所にすみやかに避難しましょう。

高速道路における緊急時3原則

「立たない」「残らない」「避難する」



高速道路上には「立たない」「残らない」「避難する」



皆様のご意見をお聞かせください

より良い情報提供のため、取り上げてほしいテーマなど、皆様のご意見をお聞かせください。

